

1 自己評価及び外部評価結果

事業所概要 (事業所記入)

事業所番号	0590200085		
法人名	株式会社芳栄		
事業所名	グループホーム和み (よねしろ棟)		
所在地	秋田県能代市二ツ井町飛根字高清水265番地		
自己評価作成日	平成23年2月15日	評価結果市町村受理日	

事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)

田園地帯の立地を活かし四季を身近に感じて生活出来る様に敷地内で畑作りや花壇作りそして周辺の散歩を行っております。また、個々の能力に合わせて居室の掃除や食事の下ごしらえ、リネン交換等無理の無い程度で出来る範囲の事をして頂き少しでも家庭での生活を取り入れる様なケアを行っています。
ご家族様との信頼関係を育む事については毎月初めに近況報告と月4回実施しているレクリエーションの様、そして日常生活の写真にコメントを載せた「和みだより」を送付しております。ご家族様に少しでも入居者様の普段の生活ぶりを実感していただきたく開設以来の「和みだより」の発刊を続けております。

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点 (評価機関記入)

代表者は、毎月理念について話す機会を持ち、職員に意識付けを図っている。職員は、日々の関わりの中で、利用者の尊厳を基本とし、言葉かけや対応に配慮している。地域交流では、地域行事への参加のほか、事業所の行事や催しに地域住民の参加を働きかけ、積極的な関係づくりに努めている。職員は、療法士を招いての音楽療法やホームステイ中の外国の方との交流等、利用者の関心のあることを把握し、生活の中に活かすことで、利用者の笑顔につなげており、利用者の目線に立ち細やかな心遣いや工夫を行っていることが確認できた。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

評価機関概要 (評価機関記入)

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目 1番地の 1		
訪問調査日	平成23年3月2日		

.サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目 23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の 2/3 くらい 3. 利用者の 1/3 くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目 9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の 2/3 くらいと 3. 家族の 1/3 くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目 :18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目 2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目 38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目 4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目 36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目 :11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の 2/3 くらいが 3. 職員の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目 49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目 30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の 2/3 くらいが 3. 家族等の 1/3 くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目 28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)+ (Enter+)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、事務室、ホールに理念を張り出し、日々目につくようにし、理念を常に意識し行動するように取り組んでいる。	理念と理念を具体化した方針を玄関、ホール、事務室に掲示しているほか、代表は、毎月の職員会議で理念に触れ、職員が日常業務の中で意識できるように努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭典時に当施設駐車場で屋台等を行い、近所の方や入居者様の家族の方々を招待し皆で食事をしたり、町内の運動会にも参加させていただいている。	事業所の前には「白神ふれあい伝承館」があり、「芸達者の会」に出かけているほか、町内の運動会に参加している。また、地域の祭典時には、事業所の駐車場で屋台を行ったり、相撲の慰問時等に地域住民に声をかけるなど、交流を盛んにしている。	
3		事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通して積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	毎月発行している「和みだより」を地域の皆様に見て頂きたいと考えている。以前は回覧板に添付し地域の方に見ていただいたが、理解を得れない現状もありました。地域の認知症相談窓口になれるように地域の代表者と協議していきたく考えています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、活動報告、施設概要、参加者の質疑応答を行い、意見をたくさん出さいただきサービス向上に活かしている。	会議は、2ヵ月毎に開催し、事業所の取り組みの報告のほか、活発な意見が出されている。実際に、誕生会のメニューに利用者の希望を取り入れたり、電話連絡帳を設ける等、サービスの向上に活かされていることが確認できた。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、市の福祉課職員に参加していただいている。施設での相談事項がある時は担当課を訪ねたり連絡し合いサービスの質の向上に努めている。また、電話連絡帳を付け、明確にしている。	運営推進会議には、二ツ井地域局の職員が参加している。市の担当者には、事業所の実情が伝えられ、相談に応じてもらえる関係が築かれている。連絡事項は、記録され情報の共有が図られている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者及び全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	以前、利用者の身体を保護するため、緊急やむを得ず車椅子に安心ベルトを使用したことがあった。家族や利用者に説明し、納得、同意を得ていることが確認できた。	事業所の運営規程に基づき、対応したことについて、日時等の記録を明記していくことが望まれる。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について研修などに参加し学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な方にはそれらを活用できるよう支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
10	6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。また、玄関に意見箱を設けて誰でも気軽に意見を言える環境を作っている。	玄関に意見箱を設置しているほか、電話で対応している。要望や相談等には、速やかに対応し、結果を利用者や家族に伝えている。また、毎月の便りに、担当職員から利用者の近況の手紙や写真を添えて送付しており、家族の安心につなげている。	
11	7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月20日は正職員会議、月末前日には全体会議開催し職員の意見や提案を聞き運営に反映させている。また、随時、幹部会議を開いている。	毎月の職員会議に、職員一人が一議題を持ち寄り、職員の意見や提案を聞く機会としている。意見や提案は全体で討議し、出来る限りその場で解決し、運営に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議等で職員から意見を頂き、職員一人ひとりに働きやすい環境を提供し、やりがいを持っていただけるよう職場環境・条件の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員には研修や講習の案内を職員回覧という形で自主的に参加したい職員を積極的に機会を与え育成、トレーニングを進めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の能代山本地区のグループホーム協会に入会し協会研修にも参加し、交流を深めています。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の要望、また家族にも連絡を取り合いながら両サイドの要望を最大限に活かせるように職員皆で話し合いながら利用者との信頼関係を築くように努めている。	
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	近場の家族は来設する機会も多く(報告や相談を受けながら話し合う時間を多く作っている。遠方の家族には電話、手紙、メールで連絡を取り合い随時受け付け体制をとるよう努めている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている 小規模多機能型居宅介護限定項目とする		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者のできる役割を見つけ共に生活しているという立場を念頭に置き作業や制作活動、レク等の時間を共に過ごしている。会話を多くし、お互いに誉めあい支えながら尊重しあう関係を築いている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族等の面会に制限は設けておらず、電話や手紙も自由に活用してもらっている。近況報告は定期的に家族等に行きホームと共に利用者を支える関係を築いている。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている	利用者の信頼している医師に受診しており大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。また、友人への連絡や家族の人が馴染みの場へと連れて行くような関係に努めている。	家族の協力を得ながら、馴染みの人や場所との関係が途切れない支援をしている。地区の祭典には、家族等のほか近所の方も来訪し、一緒に楽しんでおり、地域との関わりを大切にしていることが確認できた。
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	運営者、管理者、職員は利用者同士の関係を把握しており個々が孤立せず利用者同士が関わりを持ち、職員が中に入ったりしながら関わりを保ち支え合うよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても介護相談に応じており、また手紙など頂いたり、家族の方が来設してくれたりとの交流を継続し関係を断ち切らないようにしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の生活リズムを事前調査や家族との打ち合わせ等で把握し、集団生活の中で本人本位になるようにサービスの提供に努めている。また、家等で使用していた茶わんや箸を使用してもらっているようにしている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしの把握については本人や家族から生活環境や生きがいなどを把握している。また、これまでのサービス利用の経過等にも把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	暮らしの現状把握は介護サービスをしていくうえで一番に大切で必要な事なので総合的に把握するように努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本人、家族等から現状を聞き利用者本人、家族、管理者、職員と話し合い最終的に運営者、管理者、職員でケア会議を開きそれぞれのアイデアを反映した介護計画を作成している。	職員は、全利用者の目標を1枚のシートにまとめ確認しやすくしている。計画をケース検討会議で3カ月毎に評価し、見直している。また、家族からは、支払い時や電話、メールを活用し、意見を聞いている。利用者の意向等は、それぞれが思い等を自由に記入するノート(日記)を活用し、把握している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の日々の様子やケアの実践結果は個々に介護記録として記入している。これら情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる 小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年2回行なっている消防訓練のうち1回は地域の消防署に来てもらい消防訓練を実施している。また、訓練時は近隣の地域の皆様にも参加に協力いただくよう代表者をお願いしています。		
30	(11)	かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、歯医者、薬局とホームの関係は十分良好であり利用者、家族に納得してもらい適切な医療を受けられるように支援している。	月2回、協力医療機関の往診があるほか、利用者や家族が希望する医療機関の受診を支援している。通院は職員が支援し、必要に応じて、家族に電話で報告している。また、定期受診の結果は、毎月の便りで報告している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の協力医療機関による往診をしてもらっている際にも看護師に気軽に健康管理の相談や指導を受け医療活用の支援に努めている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は病院関係者及び家族と連絡を密にし情報交換、相談に応じ安心して治療できるよう努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人、家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んで	終末介護のあり方について本人、家族やかかりつけ医と繰り返し話し合い共に納得し理解できるようにしている。	事業所として出来る対応について、随時話し合い、取り組んでいる。これまで、家族の同意を得て、医療機関と連携を取り、看取ったことがある。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や自己発生時に備え、緊急連絡網や救急車の要請手順を作成し全職員が認識し急変や事故発生時に備えている。また、救急車要請マニュアルを作成し備えている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時などの避難訓練を実施し避難場所は事業所の駐車場を活用し、地域の避難場所を活用できるように地域住民の一員として協力を得られるように努めている。	年2回、2ユニット合同で避難訓練を実施し、うち1回は、消防署の協力を得ている。運営推進委員の地区連合会長より、有事の際に地域の協力が得られるよう呼びかけてもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねる事のないよう言葉掛けや行動を徹底し、記録などの個人情報のプライバシーの確保も職員全員徹底している。	法人代表は、職員会議で、自分がしてほしい言葉づかいや対応になっていないか全職員に確認し、支援の基本を周知するように取り組んでいる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が本人らしい思いや希望を表せるように尊重し、共同生活の中で納得しながら暮らせるよう支援している。日常生活の中で選択する場合はあれば随時本人の希望を出来る限り尊重するように努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大事にし役割を持つ事によって自信を持っていただけるような支援をしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している 認知症対応型共同生活介護限定項目とする	出張理容店と契約しており本人と家族の希望で行う事ができ、また、本人の望む店にも家族等の協力を得ながら、希望に沿うよう支援している。季節に合う服装を職員と一緒に選んで着ている。男性の髭剃りに関しては、まず本人が剃り、そり残った部分に関しては職員が入浴時に剃ったりしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のできる範囲内で職員と一緒に役割分担をし調理や準備、片づけをしている。地域の方や家族から頂いた旬の物を提供している。また誕生会ではあらかじめ本人が一番食べたいものを聞き、誕生会に提供し喜んで頂いている。2週間に1度カレーとシチューの日を設け選択していただく機会を作っております。	利用者は、調理の準備や後片付けに、可能な範囲で参加している。利用者の希望や体調に応じた食事を提供しているほか、事業所の畑で収穫した野菜や、地域の方からいただいたものを活用している。また、選択メニューを行う等の工夫をしており、利用者からは「この食事はいつも美味しいよ」との声が聞かれ、楽しい食事であることが確認できた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食べる量や栄養バランスを考慮し1日1,500キロカロリーを目標に献立を作成している。個人別に水分摂取量も記録し把握している。また、利用者の状態に応じてお粥やきざみ食にするなどの支援をしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。また、食事前もうがいをしてから食事するという流れにし支援している。入れ歯の方に関しては夜間入れ歯を預かり、入れ歯洗浄剤に漬けて朝つけて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りオムツ使用を避けているが、必要な場合は尊厳を傷つけずにトイレ誘導を促し、排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。失禁が多い方には午前と午後に声掛けし、トイレ誘導している。	排泄チェック表から利用者のパターンを把握し、誘導等の支援をしている。また、夜間はナースコールを活用している。便秘予防として、毎日ラジオ体操や「ずんどこ節」等の体操を取り入れて体を動かしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の便秘原因や及ぼす影響を理解し、予防のため、食事の工夫、水分補給、散歩、きよしのズンドコ体操など体を動かす働きかけをしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の体調や要望に合わせて、基本週3回のペースで入浴を楽しめるよう支援している。	入浴は、基本として週3回実施しているほか、随時シャワー浴を行っている。職員は個人入浴を支援し、利用者は入浴を楽しみにしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの生活習慣や日々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるように、主治医とも相談しながら支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員は利用者一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法・用量について医師の説明や薬局の説明書により理解に努め、活用や服用の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者ができる範囲内で役割を持っていたり、生活歴や経験を活かせるよう、気晴らし、楽しみごとの支援をしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している 認知症対応型共同生活介護限定項目とする	年間行事にて花見や紅葉ドライブ、お祭り、運動会、お買い物ツアー等を開催しており、普段行けない場所への気分転換の一環として支援している。	天気の良い日は、車いすの方も全利用者が外に出て、散歩や畑仕事、草取り等、出来ることに参加している。また、4～5人の少人数でドライブに出かけているほか、花見や紅葉狩り、お買い物ツアー等、戸外に出て楽しむよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者がお金を持つ事の大切さは職員は理解しており、個々の預かり金は事務所内で適切に保管し、希望時は職員同伴で買い物の機会を与え支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等からの電話の取次ぎや利用者が電話をしたいと要望した時は支援している。手紙は家族や利用者の友達からも来る事が多いが、利用者が希望したときは手紙を書くように支援したり書けない場合は職員が代筆し支援するようにしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は毎日掃除や消毒をし清潔に保ち、利用者にとって不快な音や臭いや光がないよう配慮し、季節ごとにその時にあった飾りや季節感を取り入れ居心地良く暮らせるよう努めている。	共用空間の壁には、手づくりのちぎり絵の雛人形や、俳句や刺し子等の趣味を活かした作品が飾られているほか、長者番付表等を貼るなど、懐かしい物を取り入れている。さらに、見やすい場所に、大きい文字で月日と曜日を掲げるなど、利用者に配慮した取り組みをしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている 認知症対応型共同生活介護限定項目とする	共用空間の中には利用者同士が思い思いに過ごせるように畳を敷いて足を伸ばしたり横になれる場所を確保し、思い思いの事を気軽に明るくできるように努めている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族等が訪問した場合でも居室で語りあう事ができる空間作りをしている。利用者や家族が使い慣れた物等を活かして過ごされている利用者もいる。本人の要望を出来る限り取り入れている。	居室は、ベッドと小さなタンスが備え付けられているほか、テーブルやご仏壇等が持ち込まれ、利用者が居心地よく暮らせるように配慮していることが確認できた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には氏名とケース担当の顔写真を表示しており混乱や失敗を減少させるように努め声掛けや見守りしながら自立して暮らせるように工夫している。また、月日、曜日が一目でわかるように大きく配置し、入浴の順番もホール内に配置し混乱の無いように工夫している。		